

## 成果の説明書

(氏名) 丸山奈穂	(学部)地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>① 研究</p> <p><u>論文執筆</u></p> <p>コロナ禍における旅行者と非旅行者に対して収集したデータをもとに、観光のモラル化、人々の分断、リ spons ible ツーリズムの推進に関する論文を執筆中である。また「大学のガイドブック」の1章を執筆した。</p> <p><u>調査準備</u></p> <p>上記の執筆中の論文に新たなデータを加えるためにアンケート調査を作成した。インバウンド観光が活発になってきたこともあり、23年度5月に実施する予定である。</p> <p><u>研究会発表</u></p> <p>6月に「観光文学研究会」にて観光のモラル化についての分析について発表した(オンラインミックス)。時間が2時間程度あったため、同様の研究を行っている研究者と時間をかけて意見交換し国内外の状況を知ることができた。</p> <p><u>査読</u></p> <p>9月に「観光研究」の査読を行った。</p> <p><u>サバティカル</u></p> <p>8月よりサバティカルでテキサス A&amp;M 大学に滞在し、論文執筆等進めながら、次の研究(自然資源をもとにする観光)について意見交換をし、研究計画書執筆を進めた。</p> <p>② 教育</p> <p><u>小グループによるディスカッション</u></p> <p>各授業において、個々の発言のチャンスを確保するために小グループによるディスカッションを実施した。</p> <p><u>データの活用</u></p> <p>観光プロモーションの講義では、評価方法を身に着けるために数種類のデータを準備し実際に分析と考察を書くことでデータの活用方法を学べるよう工夫した。</p> <p><u>Google Form の活用</u></p> <p>小テスト等は Google Form を活用することで迅速に返却ができ、学生も見直しができるようにした。</p> <p><u>施設見学</u></p> <p>演習 I、II ではコロナ禍で実施できていなかった施設見学を実施した。見学を通じて実際の観光現場を見ることに加えて、ゼミ生同志の交流も可能になった。</p> <p><u>授業手法の修得</u></p> <p>サバティカルにおいて、大学院の授業を受講し、少人数ディスカッション型の授業の進め方を学んだ。Zoom 等を活用しゲストスピーカーを呼ぶ、ディスカッションのテーマにそってグループを分ける等、様々な角度からの学生へのアプローチ方法を取り入れ、後期課程進学志望者と就職希望者両方のニーズを満たせるよう、研究と実践の両方の面を授業に取り入れる方法を学んだ。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>上毛新聞オピニオン委員(2022年8月まで)として原稿の執筆</p>	

### 3 次年度以降の計画・抱負

サバティカルで学んだことを研究および教育に生かしていきたい。今の学生は入学時からコロナ禍であり、自身の観光経験がかなり少ない点に配慮したうえで観光動機や行動についての説明を丁寧に行いたい。またコロナ終息後に向けて、観光マーケティング、イベント観光などへの需要が高まっているので、その点について教育に取り入れていきたい。